

＝令和元年度早川南小学校だより＝

はるき



令和元年9月13日

No.22

校長 坂野修一

全国学力・学習状況調査について



台風15号の置き土産は、山梨を猛暑日にしてしまうような熱波でした。子どもたちの体調には最大限の配慮をし、運動会特別日課に基づいて練習が始まっています。昨日今日と、少し涼しくなったような気もしますが、そんな残暑の中で、運動会の練習以外の時間は、学習にも精を出している子どもたちです。運動会の練習もそうですが、何においても毎日毎日積み重ねることがとても大切…。そんな子どもたちの積み重ねを検証する全国学力・学習状況調査について報告いたします。

今年度の調査(国語・算数)は4月18日に行われ、このほど、それぞれ個人の結果と、学校全体や山梨県全体の概要が明らかになりました。また、抽出校ということで4月16日に行われた教育課程実施状況調査(理科・社会)についても結果が戻ってまいりました。本校は、4月当初は6年生在籍児童2名という少数のクラスであり、母数がたいへん小さいので都市部や大規模校で行われているような平均点を示しての結果公表は行いませんが、どうかご理解ください。

【国語】

※無回答率が低く、子どもたちが時間いっぱい最後まで粘り強く問題に向かっていた姿が印象的でした。いくつか課題も明らかになりましたが、特にドリル的な練習ですぐに克服できるであろう、同音異義語の問題に課題が見えました。今回の問題は、こんな問題でした。

*地いきの人30人を調査のたいしょうとして、公衆電話は必要かどうかと聞いたところ…、(以下略)

*公衆電話についてかんしんをもってもらいたいと思います。

正解は、「対象」であり「関心」ですが、「対照、対称」とか、「感心」などの同音異義語は苦手に行っている子どもが多いです。「以外、意外」とか「過程、家庭、課程、仮定」とか「確率、確立」など、大人でも間違っって使うことを目にします。ふだんから、このような問題に取り組むことが大切と考えています。

【算数】

※昨年度までは、A問題B問題として行われ、A問題は四則計算をもとにした基礎的な問題、B問題は応用力を問うような問題でしたが、今年度からは、混ざった形での出題となりました。その中で、基礎的な問題は正答率が高かったですが、応用的な問題には課題が残りました。これは、全県的にも全国的にも同様の傾向です。「習うより慣れろ」という言葉もありますが、数こなすことも大事だと痛感しました。

【児童質問紙】

※子どもたちの生活習慣や心持ちなどを尋ねる「児童質問紙」というものもありました。その中で、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問には、みな「そう思う」と答えていたことに安心…。山梨県の子どもたちは、多くの項目で、全国平均を大幅に上回っています。



残暑の中での運動会練習で、子どもたちも疲れていることでしょう。明日からの3連休をうまく過ごし、来週からも頑張れますよう、ご家庭でのご配慮をお願いします。そして、敬老の日があります。本日子どもたちは手紙を持ち帰りました。手紙を渡しながら、何かできるといいですね。

